

情報連絡員報告・7月分

ついに、製造業の「業界の景況」DIプラスへ

～猛暑で氷・帽子・浴衣など活況～

<東京都中央会>

7月の情報連絡員報告によると、製造業の「業界の景況」DI値が14年ぶりにプラスに転じていることが明らかになった。「業界の景況」の前年同月比DI(「好転」-「悪化」)値は、製造業・非製造業ともに平成2年10月に水面下に沈んで以来14年近い歳月が流れたわけである。非製造業は水面下だがまずは朗報であろう。報告欄には、猛暑の影響で活況という報告が氷製造、帽子製造、浴衣縫製業界から寄せられている。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計。

<特記事項欄より>

製粉業=小麦粉の生産量は今年の1～5月累計では、前年同期に比べて増加している。今年に入ってから食パンは伸び悩んでいるが菓子パンは増加している。麺類は減少気味である。

弁当製造=売上は自然増加の傾向にある。宴会・会議などの単発注文が入ったため。

氷製造=角氷の売上は連日の猛暑・熱帯夜で好調。昨年が冷夏で悪かったこともあり前年比20%増である。袋詰め砕氷は角氷同様であるが今後の伸びを期待している。

和服裁縫=7月になって浴衣の注文が殺到する変わった現象が起きている。バンクしてしまった業者もいるようだ。ここ数年続いている浴衣ブームに百貨店や専門店も参入し、高級感やオリジナリティを求めるものが好調なためである。願わくは、浴衣だけでなく着物人口そのものの増加を期待したい。

帽子製造=帽子業界にとって、願ってもない好天に恵まれメーカー、問屋とも久しぶりで活気づいています。今年半期を振り返ると、5月の連休があまりにも天気が悪かったものですから差引ゼロのようです。

紙器製造=猛暑で一部の飲料品系のパッケージが好転しているが、全体的には決してよい状況ではない。

シール印刷=特定の設備(例:カラー印刷機など)をもっている企業に仕事が集まる傾向が見られる。そうしたところはかなりの残業を行っている。

塗料製造=塗料業界全体としては上昇の気流に乗っているようだが、不採算部門はやはりなかなか改善されない。好調なのは機械、電機部品、船舶などで、建築関係、木工用、家庭用、トラフィックペイントは大幅に減少している。最近の特徴として環境対応型の商品が増加してきており、コスト高となるため建築外装部品が伸び悩みの傾向を見せている。

セメント製品製造=景気回復と報道されるが、我が業界にはそうした感じはない。「ここらで本格的に製品価格の値戻しを考えないと」の声が次第に高まっている。

生コンクリート製造=都心部は大型再開発工事で出荷は旺盛であるが、三多摩地区は目立った工事もなく出荷は大幅減である。

< 要望事項欄より >

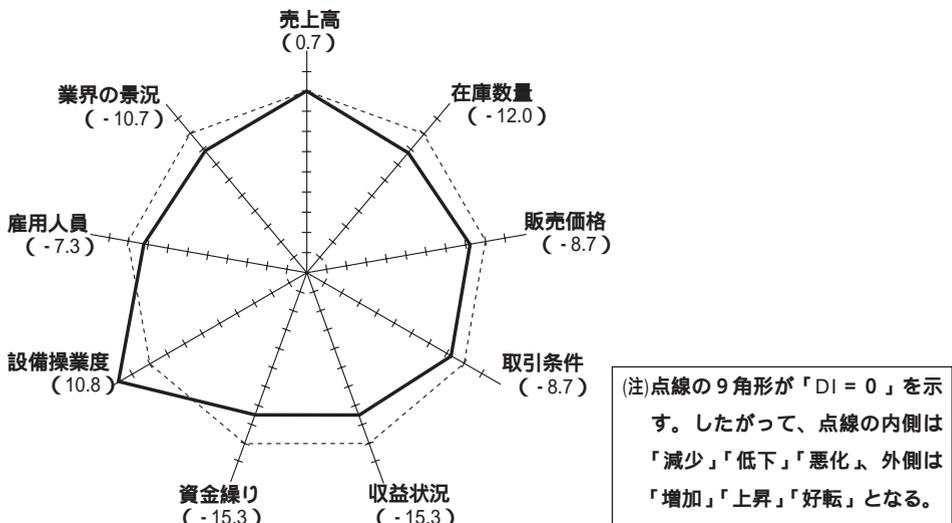
* 建設・不動産関係の法規制の一層の見直し、規制緩和をお願いしたい。

[建築金物製造]

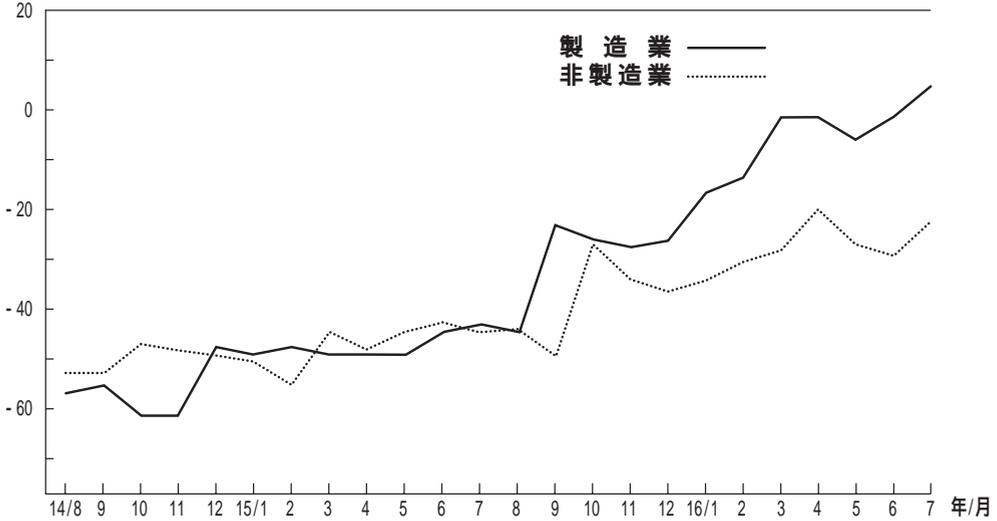
* 今回の豪雨で罹災した企業がありましたが、そうした場合の支援制度を速やかに周知していただくと助かります。

[シール印刷業]

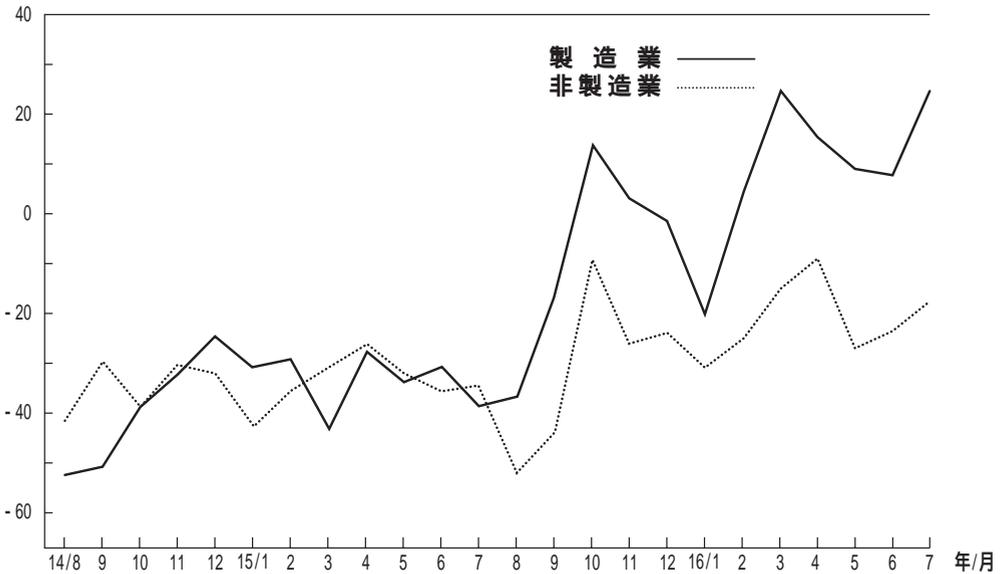
7月のレーダーチャート(全産業、前年同月比DI値)



業界の景況DIの変化 (H14.8 ~ H16.7)
(前年同月比)



売上高DIの変化 (H14.8 ~ H16.7)
(前年同月比)



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。